

発刊に当たって

川崎市は大正13年に約5万人の市として誕生し、戦後の高度経済成長期における急速な人口増加を経て、政令指定都市となった直後の昭和48年には100万人を超え、平成29年4月には150万人を突破しました。そして、令和元年5月には152万6,630人と、神戸市の人口を上回り、新しい時代の幕開けとともに6番目に大きな都市へと成長しました。

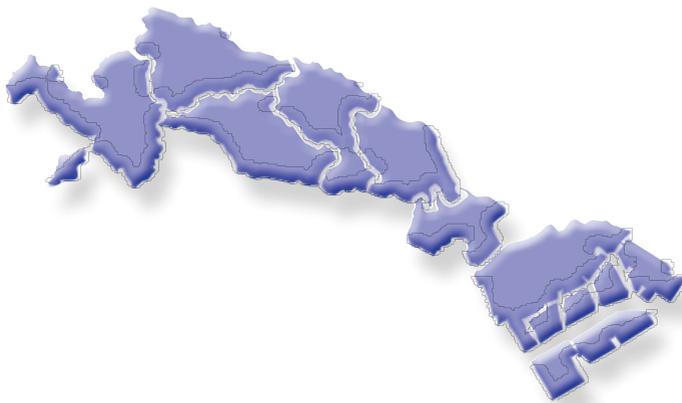
令和2年は、5年に一度の国勢調査が実施され、1920年(大正9年)に国勢調査が我が国で初めて行われて以来、ちょうど100年となる節目を迎えました。国勢調査は我が国の最大にして最も重要な統計調査であり、本市の市政運営を進める上での基礎資料として大変重要なものです。調査に関係された皆様に厚くお礼申し上げます。

この「統計データブック」は、「川崎市統計書(令和2年版)」及び「大都市比較統計年表(令和元年)」などから、市民生活に関わりが深い統計情報を引用して体系的に整理し、グラフや解説を加えて分かりやすく編集しています。

本冊子を通して、多くの皆様に本市の現況について理解を深めていただければ幸いです。

令和3(2021)年10月

川崎市長



令和3年版 川崎市統計データブック 目次

I ～令和2年国勢調査速報、統計ニュース～		1	34	市バスの運輸状況	43	
1	川崎市の人口の推移・平成以降の人口推移	2	35	主要駅の1日平均乗車人員	44	
2	区別人口	3	36	ごみの処理状況	45	
3	地図でみる町丁目別人口増加率	4	37	刑法犯認知件数	46	
4	地図でみる町丁目別1世帯当たり人員	5	38	火災発生件数	47	
5	政令市の人口、人口増加数、人口増加率	6	39	交通事故発生状況	48	
6	前回調査以降に起こった統計ニュース①	7	40	こども・学校	認可保育所の概況	49
7	前回調査以降に起こった統計ニュース②	8	41	小学校・中学校の概況	50	
II 市勢データ		9	42	福祉・健康	生活保護の概況	51
1	人口の推移	10	43		介護保険の概況	52
2	区別人口	11	44		出生と死亡	53
3	人口の自然増減と社会増減	12	45	住居	着工新設住宅	54
4	年齢別人口	13	46		住宅の概況	55
5	昼夜間人口	14	47	選挙	選挙	56
6	労働力状態	15	48	財政	市税収入額	57
7	外国人住民人口	16	49	市民意識	市民要望・評価と定住状況	58
8	婚姻と離婚	17	III 大都市データ			59
9	事業所(民営)	18	1	人口・世帯数及び面積	60	
10	区別事業所数及び従業者数	19	2	人口動態	60	
11	区別の産業別事業所数	20	3	年齢別人口	61	
12	区別の産業別従業者数	21	4	有業者	61	
13	従業者規模別の概況	22	5	事業所(民営)	62	
14	資本金階級別の概況(会社企業)	23	6	工業(従業者4人以上の事業所)	62	
15	農業	24	7	商業	63	
16	区別の農業概況	25	8	貿易	63	
17	工業	26	9	住宅	64	
18	区別の工業概況	27	10	消費者物価地域差指数	64	
19	産業別の工業概況	28	11	市(都)民経済計算	65	
20	従業者規模別の工業概況	29	12	治安及び災害	65	
21	商業	30		「ちよっと一服」	世界人口の性比	66
22	卸売業の概況	31	IV 川崎市近隣市区データ			67
23	小売業の概況	32	1	川崎市近隣市区地図	68	
24	百貨店・スーパーの概況	33	2	データ一覧	69	
25	貿易・経済	34	V 基礎データ			71
26	入港船舶	35	1	川崎市	72	
27	海上出入貨物	36	2	川崎区	73	
28	卸売市場	37	3	幸区	73	
29	賃金・労働時間	38	4	中原区	74	
30	有業者	39	5	高津区	74	
31	一般職業紹介状況	40	6	宮前区	75	
32	経済活動別市内総生産(名目)	41	7	多摩区	75	
33	都市生活基盤	42	8	麻生区	76	
	水道					
	下水道					

利用上の注意

端数処理の関係上、各数値の総数と内訳の合計が一致しない場合があります。

統計表中の符号の用法は次のとおりです。

「0」、「0.0」……単位未満

「—」……皆無又は定義上該当数字がないもの

「▲」……マイナス又は比較減を表わす

「X」……該当数字はあるが発表を差し控えたもの

「…」……数字が得られないもの